



SYSTEM



## ADULT ONLY

■ The story of RURI and AKITO goes and goes though it's returned in the present edition and progress is slow. Be careful of all the stories because it is fiction completely by the serial story. It is to enjoy the decided process whether the connections of four people go how. The man who appears on the back cover this time, too, doesn't almost have his turn.

# CRESCENDO VII

■インターネット上（ホームページ、UP掲示板など）  
の無断公開は絶対に禁止します。

どんな言い分があるうとも禁止します。  
尚、読者様、関係者のご連絡により結構判明します。  
注意してもきりが無く、掲載された場合警告無しで対処します。

- 18歳未満の人物及び現実と妄想の区別が  
つかない人物などの閲覧、購入はご遠慮  
くださいませ。  
もちろんこの本の、一部または全ての  
無断転載、引用等を禁止します。



# CONTENTS

JIBAKU-SYSTEM 2003.08.17

## 主な収録作品達

### p 5 「ミエナイカベ」

- 小説 しだれ栞
- 挿絵 むらやまたがひろ

### p 15 「CRESCENDO 7」

- 涼樹 天晴

### p 32 「くれっちえんと」

- すずきあまはる

## その他

### p 14、45 「イラスト」すどれ〜とF

### p 31、43、44 「駄文、落書き」涼樹 天晴

### p 46 「参加者あとがき」

### p 48 「奥付」

## ■注意事項■

インターネット上(ホームページ、UP掲示板など)の無断転載は絶対に禁止します。

どんな言い分があろうとも禁止します。

18歳未満の人物、現実と妄想の区別がつかない人物、以上の閲覧、購入はご遠慮くださいませ。

もちろんこの本の、一部または全ての無断転載、引用等を禁止します。

Copyright 2002 Jibaku System

all rights reserved. no part of this book may be reproduced or transmitted in any form or by any means, electronic or mechanical, including photocopying or recording, without permission in writing from publisher. published and distributed by Jibaku System keeping group.

# 「ミエナイカペ」

【Lapis Lazuli】

Sentence しだれ桜

Illustration むらやまたかひろ



「んっ……くっ！」

声が、バシヤンと跳ねた。  
艶めかしい唇。

ピンク色の、そして、口内からヌラヌラと淫らに揺れる赤い舌がうごめく。

「むう……、ふうん」

熱い声が響いた。

耳に絡みつくような熱い声だった。

紺色の長い髪が、サラサラなと流れるように揺れて。

そして、大きな藍色の瞳が、そそり立ちビクビクとうごめいた肉棒を愛おしげに見つめる。

「あっ……はぁ、アキトの……おつきい……」

満足げに微笑んで、そのまま、キュユツと握りしめる。

張りきった肉棒が、ギチンッと一際強く手の中で、跳ねる。

「ユリカ……」

アキトは、口の中で暖かな声を上げる。

愛おしげに下半身にかしづく女性を見つめながら……

「アキト……気持ち良い？」

その瞳に答えるように腕を伸ばして、優しく頬を撫でる。

「あっ……」

その指先がうっとり微笑むユリカ。

「もう、いいよ……それよりも」

アキトは素晴らしいながら、そつと体を起こした。そして、優しくユリカの乳房を揉み始める。

「あっ……もっ、もう、もっとやさしく……」

甘える言葉を聞きながら、ベッドに倒れかかる。

乳房の形が歪みながら、頬を染め、瞳を軽くゆがめながら、足を広げる。

「ユリカ……」

甘い声を上げながら、二人の身体が、ゆっくりと重なるうとする。

その様子を長めながら。

私は言葉もなく。

ただ、抵抗していた。

心の中で、見たくないよ。

見たくないよ。

なんで、こんな夢を見るの？

見たくない。

「っ！」

ビクンツと身体が跳ねた。

激しい感情が私を支配する。

私は、泣いた。

思いきり泣いた。

自分でも分からないほどに。

瞳から暖かな雫がこぼれ落ちる。

ポロポロと……溢れて止まらない。

その涙。

止めて！

この記憶。

溢れて……身体を濡らす。

身体を打つ……。

見たくない！

私以外の誰かを愛する姿……。

見たくないっ！

激しく、頭の中に光が走った。

その衝撃に、目を覚ます。

口から熱い息が漏れた。

何度も、肩で息をしながら。

ハアハアと……その息が、漏れる。

私は、ゆっくりとベッドから体を起こした。

そして、薄暗い世界を見つめる。

夢を見たのだ。

あの人、私以外の人を愛する姿を……。

そして、抱く姿を……。

夢の中なのに妙に生々しく。

そして、その吐息は、私の頬で感じられた。

苛立ちが私の胸をつかみ。

そのまま、嘆きの海へと身体を投げ込もうとする。

嘆きから逃げることも逃れることも叶わないから。

私はそれを受け容れる。

そのまま、闇の中へと。

落ちる。

0

アキトが好きだ。

そう思いこんでいる。

そして、きつとそれは正しい。

私は、あの人のために生まれて、そして、死ぬ。

彼と出会うために作られたのだと。

そう思っている。

願っている。

生を、性を、声を、星を、世を、精を、彼に与え

られて……。

そして生きている。

生きている。

生きて……。

0、5

何も見えないままに。

1

私の部屋は、飾り気がない。

シンプルな部屋。

研究素材としての位置の時から、質素だった。

私は、何をしたいのか自分でも分からないままに、

ここにいるのだから。

そして、私は生きている。生きている。

今日も、そう思いながら。

質素な部屋のベッドの上で膝を寄せるように抱え

る……。

私は、灯りのない天上を軽く眺めた。

暗い。

でも、明かりを灯そうとは思わなかった。

闇も光も私には関係ない。

必要なのは意識。

そして……。

アキト……。

アキトの事を思うと心が軽くなる。

アキトの事を思うと心が重くなる。

矛盾……。

そして、私はアキトの事を愛している。

そうだ。

愛している。

1、5

でも、その思いはどこにあるのだろうか？

2

「いやあつ！」

激しい声を上げながら。

汗に身体を濡らしながら。

嘆きの中で、また、私は目を覚ました。

質素な部屋の中。ゆっくりと部屋を見渡す。

ぐるりと。

インタフェース

サイドデスク

ベッド

それだけしかない部屋。

いつもの部屋だと認めるとどこか安心感が胸をつ

かみ、ほつとする。

だが、今は、どこかうすら寂しい感じがした。

部屋の中のそれは既製品、特に新しいものを使っ

ているわけでもなく、少し古い型のもの。壁紙も張

られていない簡素な部屋。周囲を飾られない鉄で覆

う。

そして、その殺風景な感じが、空気が冷やしてい

る。

飾るものも何もなく。

その無機質さが、どこか人を拒絶しているように

思えるだろう。

いや、多分、そうなのだろう。

これは私の心。

誰も寄せ付けたくないと願う。

私の心。

だから、私はこの部屋を飾らない。

誰にも触れて欲しくない。

入ってきてほしくないから。

この部屋を見たとき、誰もが、殺風景だと思っ

ろう。

そして、長く留まろうとはしない。

それは私が拒絶している事実を感じ取るからだろうか？

かもしれない。

そして、それでも良いと願う。

私は、誰にも欲しくない。

私は、誰にも触れて欲しくない。

ただ一人の人間を覗いては……。

ただ一人の……。

ただ一人の。

インタコムの音。人の来訪。

声が聞こえる。

「ラピス……」

あの人だ……。

願ったから？ それとも幻？

私は無言でロックを解除した。

2. 5

そして、男が入ってくる。

3

「アキト」

「……………」

私の問いに彼は答えない。

ただ無言で頷くだけだ。

私は、そっと、身を寄せる。

だが、彼は優しくそれを押しとどめた。

近づかせてはくれない……。

それが悲しい。

そして、彼だけが、踏み込んでくれる。

私が許した人。

だけど、夢の世界の彼は誰かを愛し。

私以外の誰かを見ている。

「アキト……」そう名前を呼んだ瞬間軽く顔を上げる。

必死に視線を合わせる。

「どうした？ 今日のシユミレーションの反応は？」

いつもよりも反応が0.05秒鈍ったが？」

そう言いながら優しく肩に手を当ててくれる。気づかいの仕草。

「汗びつしよりだな……何があった？」

この人は、触れさせてはくれないのに、こうして、時々優しい。

「昔の夢を見たのか？」

触ってくれても、触らせてはくれない。

「……………」私は無言で首を振った。

その反応の遅れはあなたのせいなのだ。

あなたの夢のせいだと……。

私は思う。が、口にはできない。

それを打ち消したいから、

「また……して……………」

そう甘える。

言葉を告げて、見つめる。

「……………」

無言が答えとばかりに。

「あなたが、ユリカとルリにしたこと……………」

……

アキトは、無言で私を見つめていた。

3. 3

私は無言で服に手をかけた。

3. 5

アキトは、私の行動をとがめはしなかった。

3. 7

だから、ゆっくりと肌を晒した。

3. 9

全てを脱ぎ捨てて、アキトを見つめて。

4

耳の内側を包み込むようなシャワーの音。

全身を打つ水の流れ。

柔らかく、

暖かく、

打つ、

私の身体を。

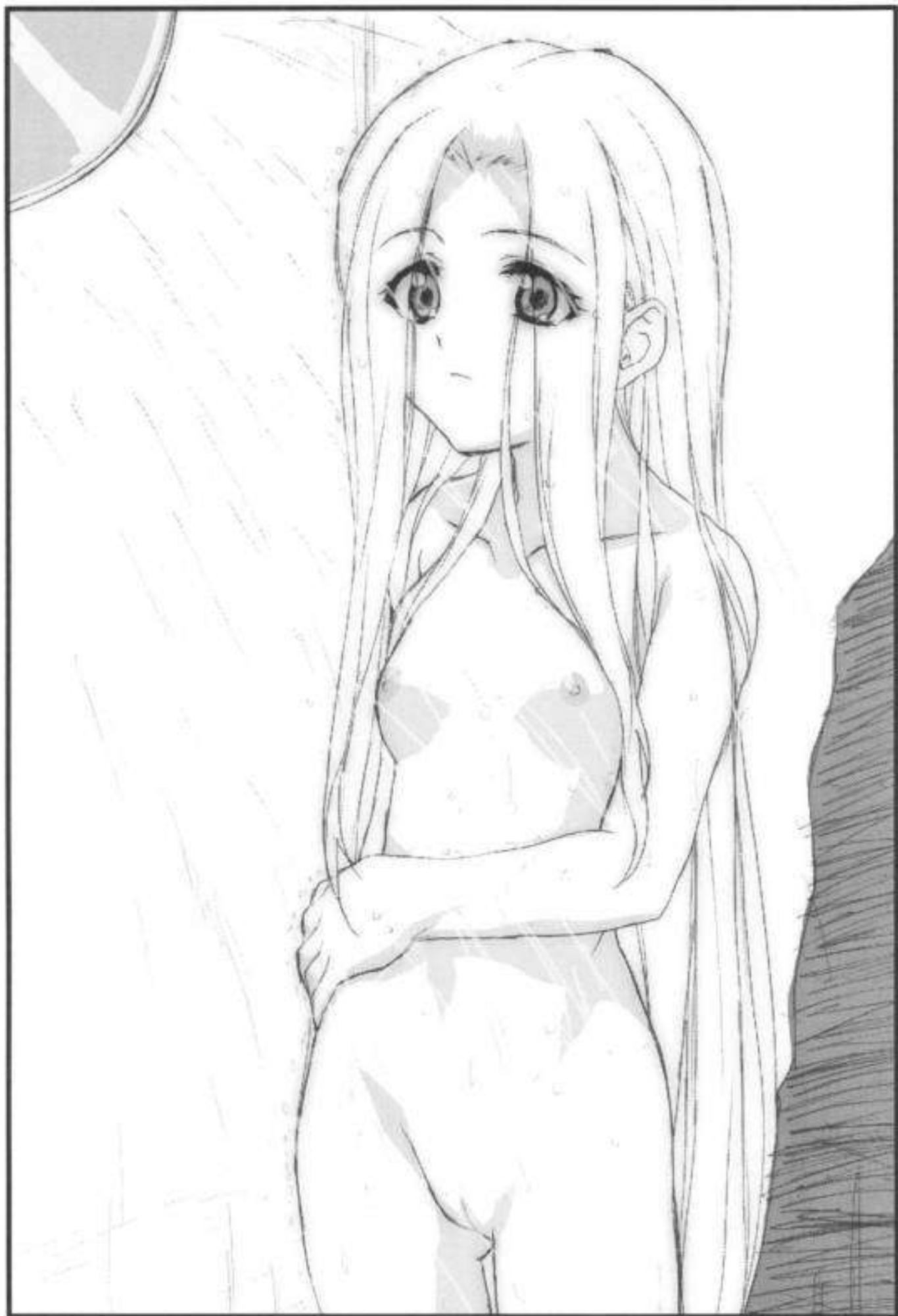
こうして、全身を洗われるたびに思う。

この行為になんの意味があるのだろうか？

だが、答えはそこにはない。

見て欲しい人がいて、その人のために、私は、身

体を洗うのだと……。





そこにあるのは、きつと嫉妬。  
そして、欲望。

欲求。

愛して欲しい。

見て欲しいという欲求。

その欲求を伝えるように。

浴びる。

熱い雨を。

身体を洗う涙を。

まるで、自分を溶かすほどに。

涙を……。

雨を……。

濡らす。

全てを。

身体を。

私の身体の突起を流れる雫。

珠がきらきらと。

幾重にも……。

流れ落ちる。

濡らす。

涙のように。

髪の毛をあたり、流れ落ち、

乳房の上を流れる雨。

そのまま、お腹をつたい。

股の間にたまるように。

すべる。

落ちる。

股間のくぼから、太股。

ふくらはぎ。

かかと。

つま先。

くまなく私の全てを流れ落ちる。

私の全てを……。

私を綺麗にして、ゆつくりとシャワーをとめる。

そして、ため息をついた。

深々と……。

4、5

バスルームから、タオルをまいてでた。

5

ベッドには、無言であの人が座っていた。

そのまま、足をすべらせる。

除れたままの足。ベタベタと。跡がついて。

「……………」

私は、そのまま、アキトの頬に手を当てた。

見上げた。

そして、重なる視線を近づけて。

そっと、唇を寄せる。

あの人は動かない。

そのまま、そのまま、熱い呼吸を感じて。

「んっ……………」

「……………」

唇を重ねてから、舌を絡める。

チュックリと……重なる。

「んっ……………」

ちゅくうつととろけるように熱い舌を感じて。

「あっ……………」

赤い舌。大きなそれが、私の小さな口の中に入っ  
てゆく。

「んっ……………」

「んっ……………」

「アキト……………」

「なんだ？」

「あなたは、私を見てない……………」

「だから？」

「だから、私はミスをするの……………」

ゆつくりと私はタオルを落としたり。

言葉も通じない。

思いも届かない。

だから、これしか手段がないのなら。

彼は拒まない。

私の胸を……………」

身体を……………」

拒まない。

5、5

身体が一つに……………」

溶ける……………」

6

そっと伸びた掌。

優しく、乳房に触れる。

コリコリと乳輪を回される感触。

正面でなく、背中にいる彼。

その大きな体。暖かくて。

そつともたれかかる。

「一つになれば……ミスはなくなるから」

私は、股間をまさぐられる感触を感じながら、

ゆっくりとその掌に委ねる。

「……そんな単純なことで良いのか？」

チユツクリと指で広げられる。

そのまま、私の中に入る指を感じて……。

「単純だからこそ効果があると言えます」

そう、声をかける。

「私は、あなたのもの……。アキトはためらいますか？」

か？」

「わからない……だが、今はラピスしか俺には残されてない」

ゆっくりと首筋を舐めて、

その刺激に身を震わせる。

「愛してなくても、私を抱けるの？」

優しい掌。

力は強くこもっていない。

快楽を与えようと動く指先。

返事の代わりに、優しくひだの上を指をすべらせる。

る。

「あっ……んっ」

唇を噛みながら、声押し殺す。

息が……響く、そのまま、そつと指を入れて、優しく揺き回した。

しく揺き回した。

「くん、あつ、ああつ、私の中で、私の……指が」

ガクガクと身体を震わせながら、指先でシーツを

握る。

「んっ……くっ」

塗れている。

二ク二クと指の動きに蜜がからむ。

私の股間からトロトロと、蜜が溢れ落ちまさぐる

指の動きに合わせて、腰が踊る。

「あつ……アキトの指が……私の中に入ってる」

息を殺すように洩らしながら、

ただ、甘えるように背中に身体を預ける。

ゆっくりと、息をつきながら呼吸を整えた。

背後で動く感触が、堅くそそり上がっている肉棒、

ゆっくりとほぐした、私にあてがっている。

「いいか？」

アキトのそれを私の手が軽く握る。

蜜をこすりつけるようにしながら、手の先でピク

ピクと跳ねるのを感じる。

手で握り、こする。

力がこもってヒクヒクとうごめくそれ。

私は自分を広げ甘い腫で、アキトを見つめる。

アキトはゆっくりと腰をうごめかした。

二度愛された。そして今日が三度目。

二ユウつと私の中を貫くそれ。

その感触を身体で感じながら、

「んっ……くっ」

熱く息を吐き出した。

くぬくぬと私の中をまさぐるように突き進む。

経験をした後とは言え、まだ痛かった。

「あつ……はああ」

深呼吸を繰り返しながら、ゆっくりと受け容れる。

ズブズブとはいるそれ。

その感触を腰で感じながら腰を少しづつ動かし始めた。

ずちゅう……つと、肉が、肉を受け容れる。

「ラピス……」名前を呼んでくれる。

「アキト……」名前を呼び返す。

その事に満足をしながらかゆつきりと腰を使い始める。

る。

ズリユズリユと私の全体でむずむずとうごめく異

物を感じる。

「あつ……アキトが、私の中に……」

少し膨れた股間。私はゆっくりと腰を動かそうとした。

「ラピス……いいから……」

優しい言葉。

「アキト……」

私はその言葉を聞くだけで、全てを委ねても良い

という気になれる。

ゆっくりと腰が動いた。

ずっ、ちゅ……ううっ。

「うっ……」思わずうめき声に近い声を口の中から

漏らした。

ずっずっ、ずつと腰が動きはじめる。

「あつ……あつ、ウツ動いてる」

その感触を口の中で洩らしながら、

「そのまま、力を抜いて……」

お互いの腰が動きはじめる。

私は、アキトに愛されたい。アキトに包まれない。

「んっ、きつっ……」

苦しそうに顔をしかめる声。

耳の後ろで首を響かせながら、

ズンズンと腰が揺られて、私の乳房が揺れる。

「あつ……あつ……あつ……」

だんだんと激しくなる腰の動きに、

私の身体をこする感触。  
心地よくて、息が漏れる。

「ラビス……ラビス……ラビス」

私の名前を呼んでくれる。

それだけで、包まれて快樂になる。

今だけでも……今だけでも……。

一つに……一つに……。

「んっ……くう！」

リズムカルに上がる刺激を感じながら。

アキトはさらに私を求めて。

そのまま……そのまま……。

お互いの腰が踊って。

リズムカルに強く、強く。

「んうっ！ くう！ くう！ くう！ あっ、ああ、アキト！

あきとお！」

「あっ！ くう！」

ビクビクと腰が踊る。

その刺激に身を委ねながら……どこまでも。

「あきとお！」

ドックうっど私の中に強い圧力を感じる。

その刺激が、貫くようにどこまでも高まって……。

「くうう！」

激しい呼吸と汗の臭いそして、私の中に満ちる感

触を感じながら……。

どこまでも……どこまでも。

私は、アキトを受け容れて。

そして感じた。

目を覚ましたとき、そこにアキトがいた。

今……誰のことを思いながら眠るのだろうか？

それは、きつと私じゃない。

それが分かる。

けど、なぜか、悔しくなかった。

嫉妬の火も消えて。

わたしは、その腕に自分の身体を滑り込ませる。

心はここにはない。それでも良い。

身体が、ここにある。それだけは、肉の感覚だけ

は真実。

だから、それを受け容れて。

わたしは、満足げに瞳を閉じた。

心の壁は越えられなくても、温もりだけはそこに

あるから……。

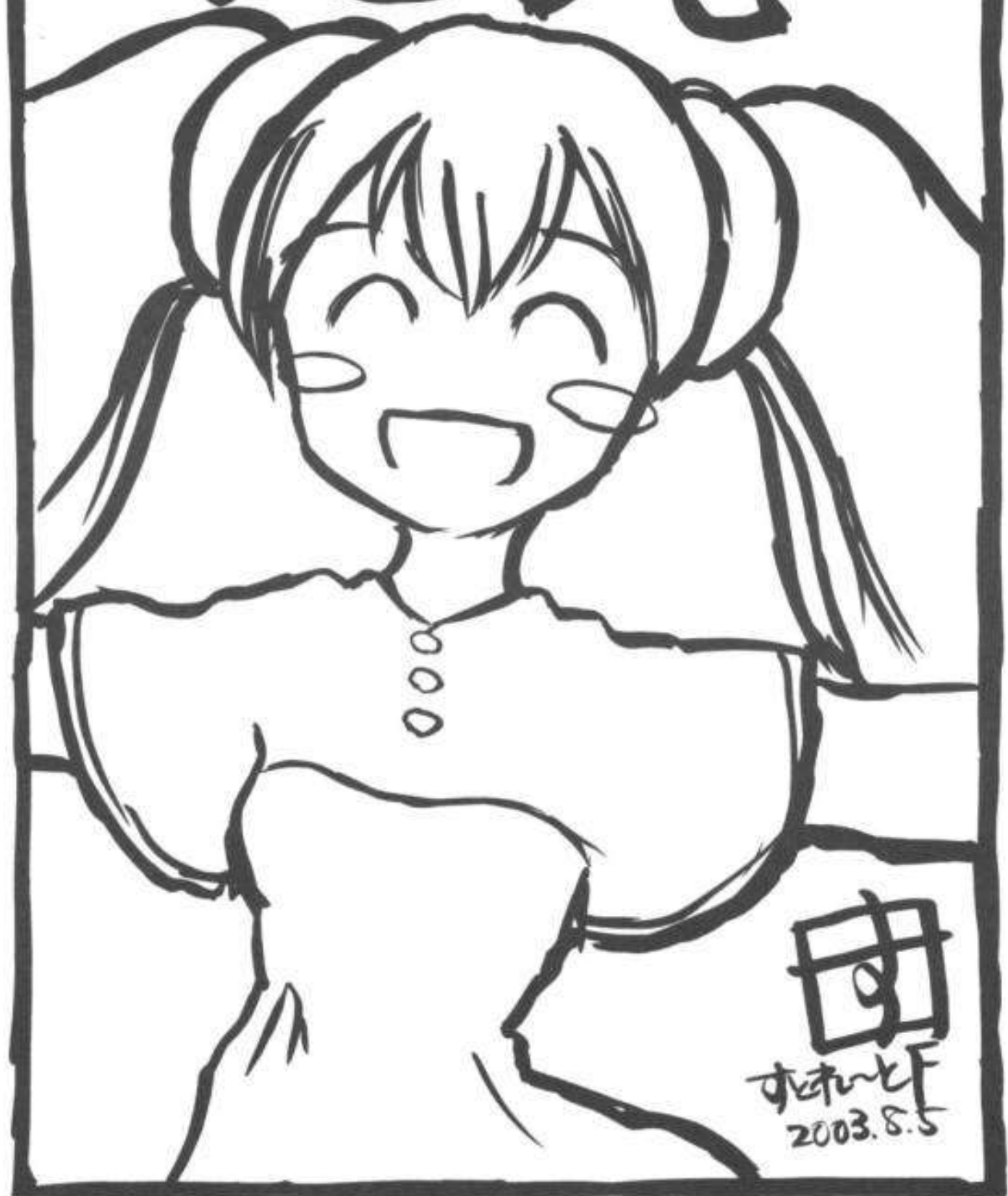
ミエナイカベは越えられない。

だけど、温もりだけは、カベを越えるから。

ミエナイカベ 了



元気



田  
2003.8.5



もうここには来るな

別れ際に言われた拒絶の言葉…

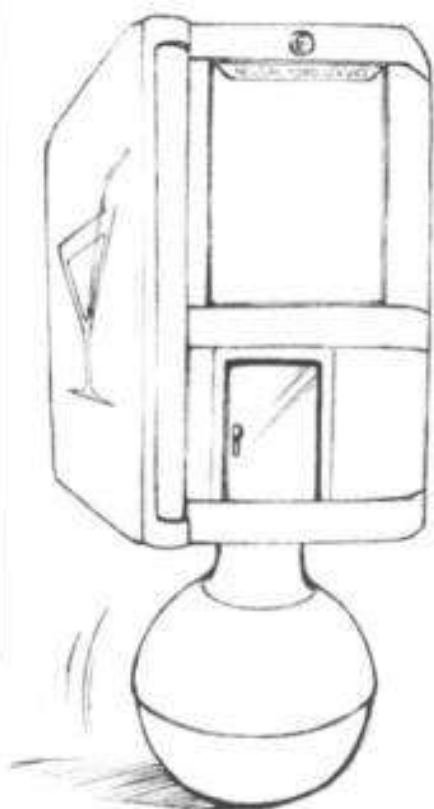
アキト…さん…

(RE) 参照ロケット有!

GM&Mのケーキ  
艦長好きでしょう?

艦長お茶でもどうですか

あーいたいた



おはな  
おはな  
おはな  
おはな

なかなかいけますね

このおはな  
おはな  
おはな  
おはな

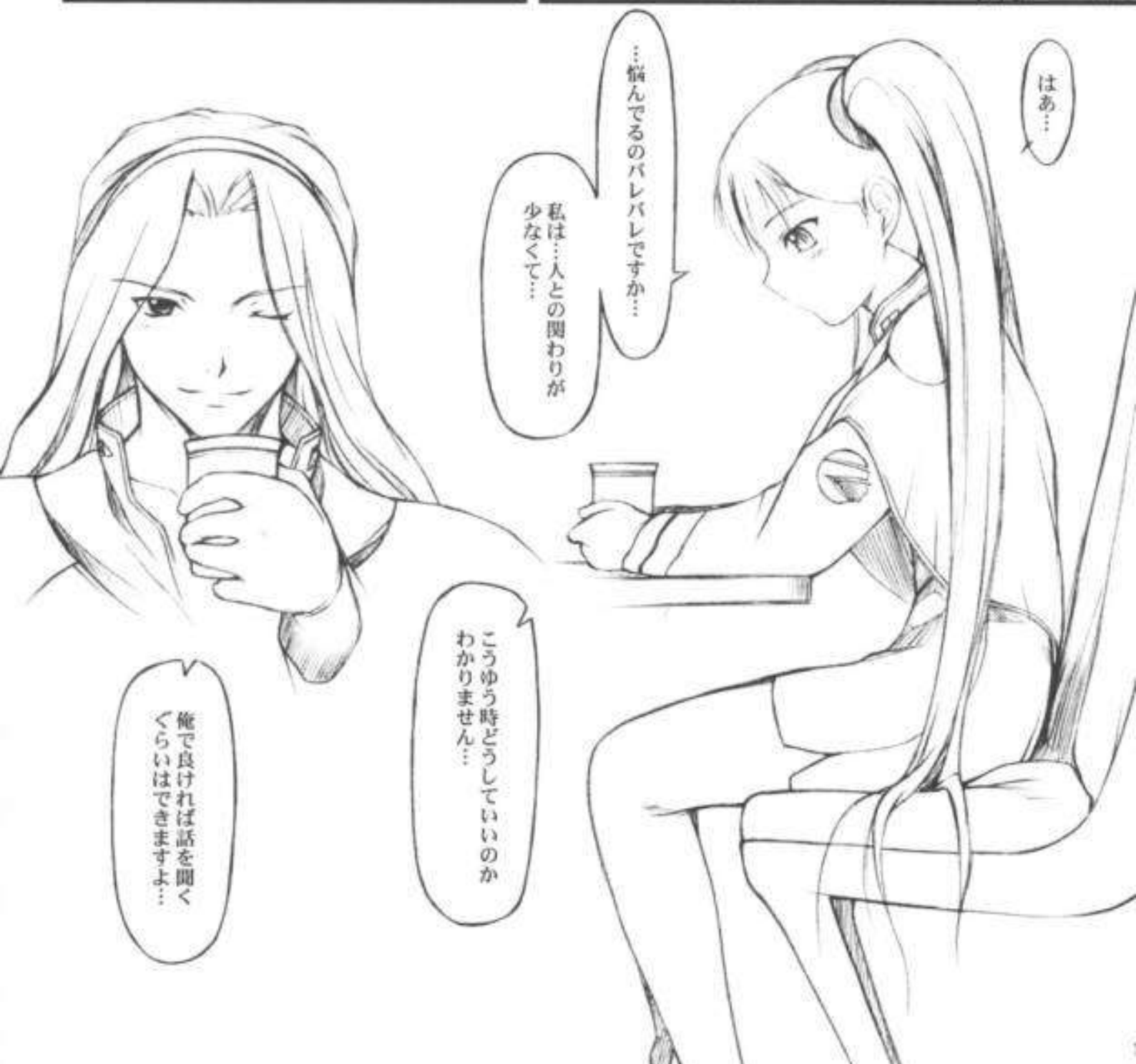
おはな  
おはな  
おはな  
おはな

このおはな  
おはな  
おはな  
おはな

これどうしたんですか？

ああ主計の美穂ちゃんも  
好物なんだそうです

なるほど...



# CRESCENDO VII

presents by  
"suzuki amaharu"

**LAST CRESCENDO**



ネルガル月基地特殊機動兵器開発製作区画  
SECURITY LEVEL 3A



ウリバタケとアキト会話…は長いのでカット (w)





来るな…か  
またストレートな表現ですね

しかしまあ宇宙軍の  
アイドル星野ルリ艦長

そんな美少女を袖にすることは  
ものすごく贅沢な野郎ですね

それは  
どの  
程度ですか？  
想像ですか  
けども…

…袖にされてません…

ノコオ  
で3.



そうですね…まあ人ってのは  
とても厄介なものですからね

情が湧けば湧くほど  
相手の事を考えてしまう

たとえその事で…

自分にとってどれだけ不利になっても…ね



そーいや昔の人は  
こんな事言っていましたね…

おかしな  
コト

「愛しあうというのは  
みづめ合うのではなく  
並んで同じ方向を見つめる事」

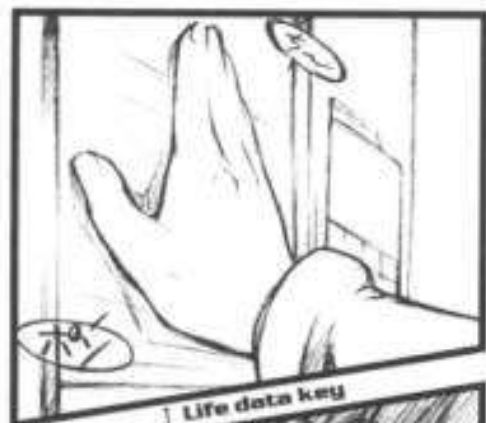
だそうです…それで

艦長はどうしたいんですか？

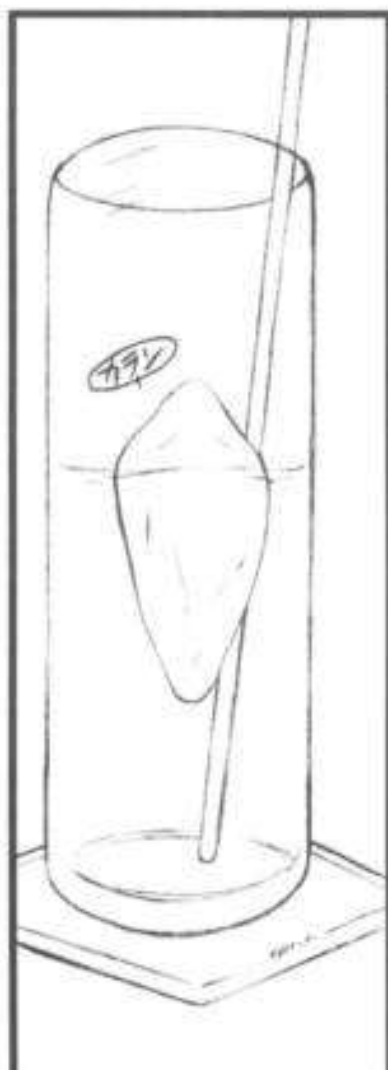
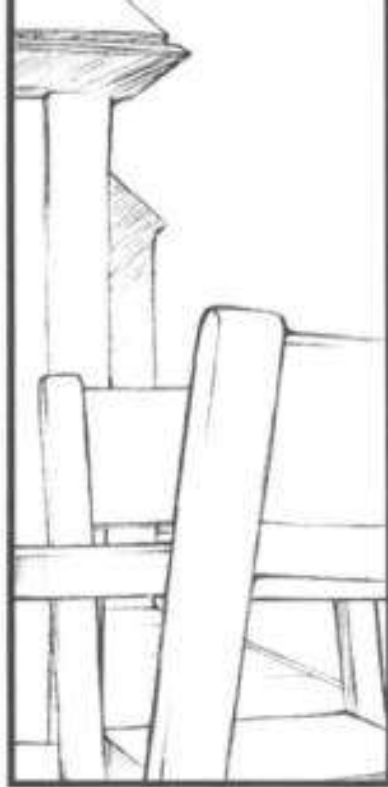
…  
ハリー君の事  
お願いします

ういっす





内容：ネルガル月基地娯楽施設第12仮想空間室  
現在は使用中で許可した人物以外は入室禁止







来て…くれたんですね…



こんにちは  
アキトさん…

ルリちゃん



そうですか？  
とても似合ってますよ



この姿は…  
落ち着かないな…



でも…そうですね…  
もしも立場が逆だったら…

私も…そう言うと思えます…

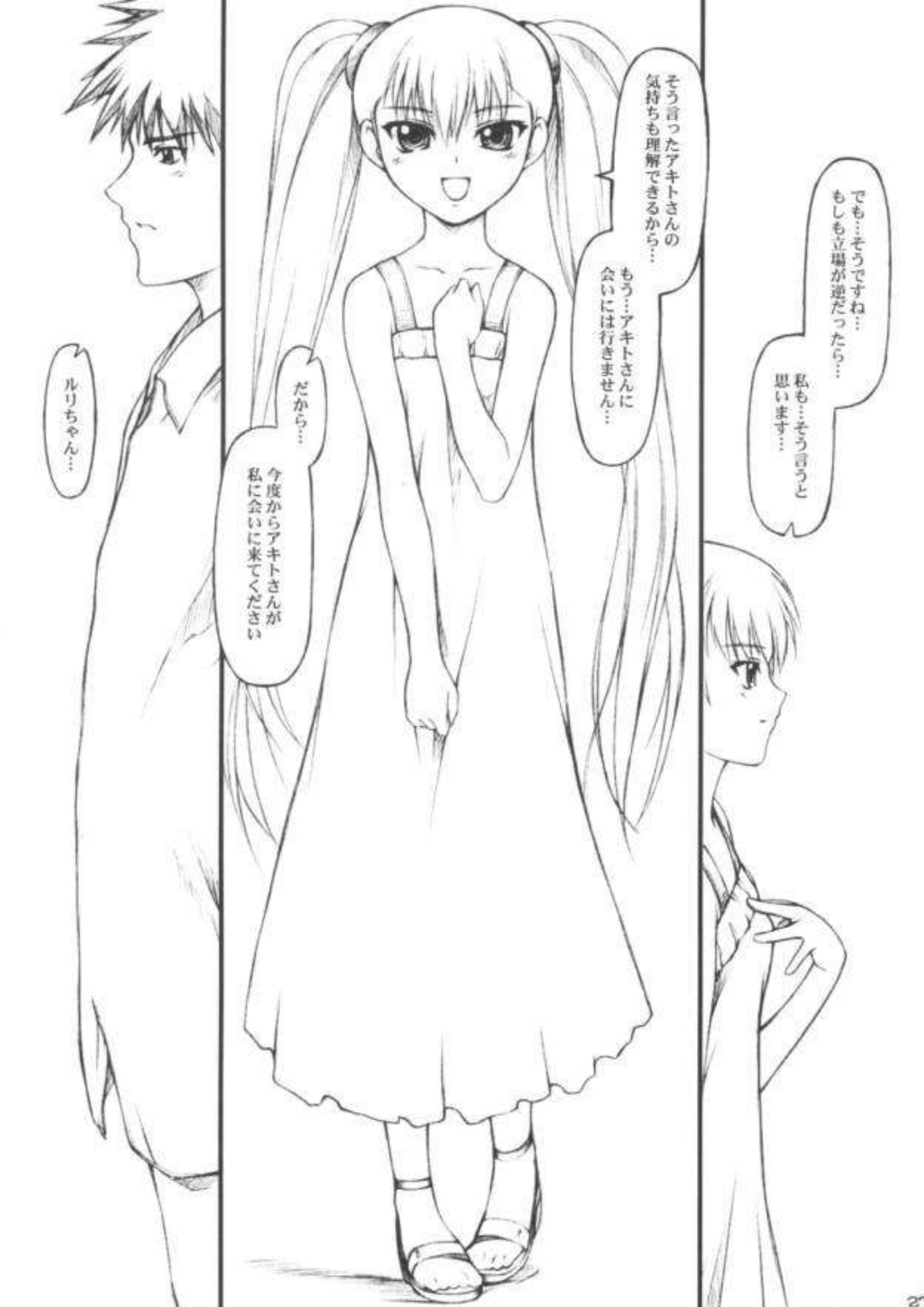
そう言ったアキトさんの  
気持ちも理解できるから…

もう…アキトさんに  
会いには行きません…

だから…

今度からアキトさんが  
私に会いに来てください

ルリちゃん…







アキトさんに会いたいのは私のわがままだって判ってます…

でも…これだけは譲れないです…

私にとってそれは全てをかけて  
守るだけの価値あるものなんです…



…ユリカさんに…  
頼まれたからだけじゃないです…



私は嬉しかったんです…  
アキトさんのために出来る事があって  
衝動を抑えるだけの行為でも…



仕方ないとか運命とかそんな言葉でかたづけしないで…

アキトさんがどう考えようと私は…私の出来る事をします



ルリちゃん…

ありがとう…

はい…

あ…



私は喜んでいました…  
アキトさんの症状を聞いて…  
アキトさんに抱いてもらえるから…

私は…酷い…

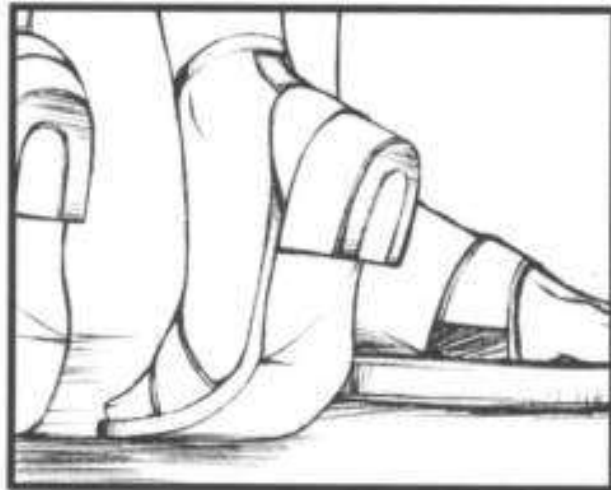


ア、アキトさん…

私…星野ルリは…

アキトさんを…愛して…ます…





**CRESCENDO**  
**-END-**

## ■ CRESCENDO 終了 ■

おかげさまで CRESCENDO シリーズも最終巻を向かえ無事終了することができました。

これもひとえに応援してくださった皆様の…とま一瞥くなりそうな挨拶は置いといて  
こんにちはo rはじめまして、この本を手にとってもらいありがとうございます。

遅筆問題絵描きの涼樹天晴でございます。

今回で合計7冊目…まさかこんな長期に渡って描き続けるとは思いませんでした…

当初は24p漫画のはずだったんだけどね。計画的にいがんと駄目だな…

ちなみに CRESCENDO シリーズは続き物で時間軸的順番はこうなってます。

2-3-4-1-5-6-1-7 (注: 1は CRESCENDO の事)

2冊目  
←初版の巻の序文も

2~4までは過去の回想という、かな〜りいいかげんな作りとなって

最終場面の7は1の展望台の続きからです。

正直言ってこの本読んだ人の評価が悪い…

なにせ起承転結の結の部分しかなかったり描いてないですからね…

この本買う人いるがとて不存です…

なにせ起承転結の結部分、全然エロがねえ…

エロ同人としては大問題…

市中引き回しの上切贈物…は嫌なので次ページからエロページへゴーです。



この2人の話しも描く予定だったんだけどね〜  
BELIEVEのほうでそのうちに描こうと思います。



それからの某日より

# くれっちゃんど

すずきあまはる





あの…アキトさん

どうかしましたか？

い、いや

ブ、ブルマ…しかも  
あれはA社のU718

ル、ルリちゃん…  
その服は…なぜに？

あ、変ですか？

い、いやとても  
良く似合ってる…

モヤ…がはるいしきも…

艦長

とんぽうおき

これぞ二十世紀に発明された  
人類最高の英知の産物  
その視覚心理戦における  
あまりの圧倒的な強力無比さに  
一般着用は禁止されたという

まさに最強最凶クラスの装備品  
これを艦長が装着すれば  
鬼に金棒まさに敵無しです

三郎太さんが…

とも  
同志よ

とゆーわけのために  
着てみました

…やっぱり似合いませんか？

いい…









あ...

クク

はあ

はあ  
はあ

うわ











駄目

そんなに...  
され... た... ら

壊れ... ちゃ...  
い... ま... す...

はあ

あ

ひいっ

ひい



おお

はあ

はあ

はあ

はあ



奥に...

アキト...さん  
入ってきて...る

はあ

はあ

ふあああ  
ああ、熱いの...

入って...る

はあ

あふれ...て  
き...ちや...う



いつもより…中に出した量が  
多いですね…

まだ一回  
なのにもう  
11:45-11:50

布越しなのに  
まだ中から溢れてきてる…



アキトさんて  
こーゆーのが  
好きなんですね…

なんややがれ  
んてわし…

う…その

あ、そうだ  
この間検査したら  
三ヶ月だそうですね

え…





## ■ 武器娘 ■

なんか色々な問題が発生して製作伸び伸びになってます…

まあおかげでキャラの見直しができるのでラッキー…と思う事で自分を慰める日々…

最近お気に入り兵器は9u37。形状がとても美しい…ニコライさんナイスです。

基本的にロシアの兵器って形状とが良いと思う今日このごろ。

まあ精密機器の性能や信頼性に問題はありそうだけどね。あと安全性もね。

没らつ画〜よくある量少せてなところ

塗る場合は逆光で体のラインださせる感じに



■ 描きたい物シリーズ ■

「あだしんち」最近特にはまっています。

もちろん内容は近親相姦。

姉×弟（みかん×コスビコ）物

しがしこれ言うとなんか止めろ

とか皆に言われています（w



ラブリスはたまたま!

ナースミスター!



すくととF

2003.8.5



祝！ 最終巻。長かったですね。お疲れさまでした。  
 次は何やりますか？  
 最近、こちらはトラブル続きで、その反動として涼樹さんにも  
 迷惑をかけまくって申し訳ございません。m ( \_ \_ ) m  
 この場を借りて、お詫び申し上げます。  
 あと、挿し絵の、むらやまたかひろくんにも、心から感謝です。  
 彼が原画した、エロゲー『うさねこ』がスタジオ ルクスより好評発売中です。  
 良かったら見てあげてください。(=ω=)ノ  
 もっとエロエロにしたかったです。力不足を感じつつ、こう言う機会を与えてくれた。  
 涼樹さん、あと、むらやまくん、購入された方に、感謝を。  
 ありがとうございました。  
 sidarezakura@hotmail.com

■しだれ桜■

おっけいさまでした〜。長すぎたわ〜と。みんな大変な事になったと思ってるよ  
 次は〜 新ナンガ本で〜(ウツ) スパルビターも少し〜



■むらやまたかひろ■

どうもです。117も忙しい中お礼がとて。色々大変な事になってはいるけどFS!!!  
 次回作の決まってる4とよってます

落しました...  
 ごめんなさい。  
 ただ...それだけ



■すれーとF■

仕事117が忙しいのと117もすいません。高木さんで味があったので使いました。  
 で中が毎日違う初作、でも、でもお礼として。今回の残念な件... 次回  
 次回もよろしくです。また何かが決まってる4とよってます



## 奥付

平成 15(2003)年 08月 17日 初版発行.

平成 15(2003)年 09月 12日 2版発行.

発行者 涼樹天晴

発行所 自爆SYSTEM

ホームページアドレス <http://home9.highway.ne.jp/jibaku/>

連絡先メールアドレス [kimidori@pb.highway.ne.jp](mailto:kimidori@pb.highway.ne.jp)

印刷所 トム出版 様

この本は、印刷屋さんが丹精込めて印刷製本して下さいましたものです。  
万一、落丁乱丁本があったとして、それは本番数日前完全ギリギリに入稿するという  
愚鈍に出た執筆陣の責任です…。ごめん。  
本誌の、一部または全ての無断転載、引用等を禁止します。  
定価はイベント、及び一部の同人誌取扱店にて表示してあります。  
インターネット上（ホームページ、UP掲示板など）の無断公開は絶対に禁止します。  
18歳未満の人物、現実と妄想の区別がつかない人物、以上の閲覧、購入はご遠慮くださいませ。  
2002 JibakuSystem, Printed in Japan

Copyright 2002 Jibaku System  
all rights reserved, no part of this book may be reproduced or transmitted  
in any form or by any means, electronic or mechanical, including  
photocopying or recording, without permission in writing from publisher.  
published and distributed by Jibaku System keeping group.





# CRESCENDO VII

The story of RURI and AKITO goes and goes though it is returned in the present edition and progress is slow. Be careful of all the stories because it is fiction completely by the serial story. It is to enjoy the decided process whether the connections of four people go how. The man who appears on the back cover this time, too, doesn't almost have his turn.

**ADULT ONLY**



GMSYSTEM